



第10回 北東3支部技術士交流研修会

技術士（衛生工学／総合技術監理部門） 永瀬 次郎

1. はじめに

2007年（平成19年）11月21日、日本技術士会の高橋会長をお招きし、東北仙台にて第10回北東3支部技術士交流研修会が開催されました。会場は歴史を感じさせるKKRホテル仙台、天候はうす曇でそれほど寒くなく快適な状況でした。

北海道支部からは、斉藤副支部長、能登副支部長、大谷事務局長、森事務次長、中原幹事それに研究・事例発表を行う平田技術士と永瀬の合計7名が参加いたしました。北陸支部からも8名の参加があり、地元東北支部の参加者を合わせ総勢60名が参加する研修会となりました。

2. 研修会開会

東北支部吉川会長の開会挨拶に続き、高橋会長の来賓挨拶が行われました。最近の技術士会の動向や、これから技術士が目指すべき方向性などについて説明されましたが、とくに技術士会員を増強すべく活動してゆきたい旨のお話がありました。

続いて各支部の近況報告が行われましたが、大谷事務局長が北海道支部の近況報告をされた中で、北海道技術士センターが北海道支部に統合される過程で、以前のセンター会員を協賛会員として支部活動への参加を認める措置を実施している事が報告されました。その措置が功を奏し支部会員が漸増しつつあり、全国割合に比べ北海道支部入会率が高い事が説明されますと、高橋会長が大きく頷いていらしたのが印象に残っています。

東北・北陸それぞれの支部の活動も報告されましたが、各県ごとの技術士会や衛生工学・環境・水道部会など、それぞれ特徴を持った活動をされていることを知ることができました。

3. 研究・事例発表

北東3支部の交流研修会では、従来一つのテーマを選定し、それに対してそれぞれの視点・立場から研究発表を行う形式で進められておりましたが、今回は自由テーマとなっており、各発表者が普段取り組まれている研究・事例について発表が行われました。また、今回の研究・事例発表は“eラーニング”の教材として利用したい要望があり、会場にはそのための機材が運び込まれておりました。スクリーンも発表スクリーンだけでなく、発表テーマや発表者を紹介するスクリーンが別に設置されており、合理的な設定になっておりました。

北陸支部からは、新潟県中越沖地震に関する報告が2題行われました。水道部門の大沼技術士からは、柏崎市の水道の被害の発生状況と、復旧活動の詳細が報告されました。水源貯水池が2基設置されており、一方に設置した緊急遮断弁が正常に作動したため、一定貯水量を確保しつつも他方の水源から給水を継続することができ、被害を最小限に止められたとの事です。また、緊急時の管路の全体把握には紙の全体管路図が必須との発言もあり、電子化が常態化している現代にあって、検討を要すポイントと感じました。また建設部門の小野寺技術士からは、中越・能登半島・中越沖地震を例にとり、最近の地震被害の特徴について、写真を中心に詳細な報告がなされました。今後の地震被害を避けるためには、地域住民に対する啓蒙活動の重要性と、住宅の耐震化率を高めるための国の経済的優遇措置の実施の必要性が提案されました。

北海道支部からは2題発表を行いました。まず、平田技術士が“ザリガニ保全と環境教育”と題し、



写真-1：平田技術士発表資料

絶滅危惧種であるニホンザリガニと外来種のウチダザリガニなどを例に取り、現在の北海道における水生生物の生態系と問題点、保全対策などについて詳しく述べられました。さらに子供に自然環境の正しい理解を促すため、環境紙芝居クイズなどを用いながら、興味を持たせた水辺の観察会を実施されていることが報告されました。

続いて永瀬が発表を行いました。リージョナルステート研究会に属する循環技術システム研究分科会にて、3年半ほど前にまとめた有機質廃棄物の循環に関する提言集「循環型北海道を目指して」を基に、現在の状況を追加アレンジして発表いたしました。

発表の準備のため提言集を久しぶりに読み返しましたが、当時の会員の皆様の熱意が再度伝わってまいりました。また、アレンジの情報をお寄せいただきました皆様に、紙面をお借りして感謝申し上げます。様々な部門が横断的に連携して研究を行うパ

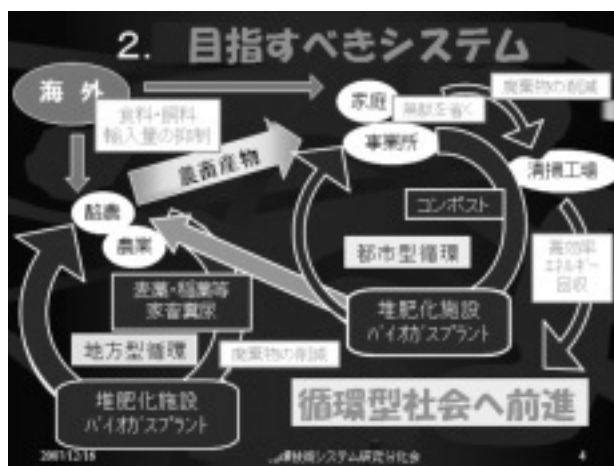


写真-2：永瀬発表資料

ターンには、興味を持っていただいたようです。

最後は地元東北支部から2題発表が行われました。先ず大木技術士補から“東北地方における地域ITSの取り組み”が発表されました。路面の凍結・圧雪状況などを検知し、その情報をリアルタイムに提供する試みです。交通事故防止への貢献がおいに期待できます。また建設・農業部門の古川技術士からは“観光政策促進に資するソーシャルマーケティング手法”と題する発表が行われました。地域全体を経営資本と捉え観光促進に生かす考え方で、具体例として北海道の美瑛町や岩手県の遠野市の説明などが行われました。

各支部からの発表を拝聴し、たくさんの技術士が
様々な場所で、様々な分野で活躍している事を改め
て知り、意を新たにすることができました。

4. 技術交流会と牛たん

交流研修会後、技術交流会が実施されました。お歴々のご挨拶・乾杯の後交流会に移行しましたが、アルコールが入るとさらに活発になる気質はどの支部の技術士にも共通のようで、あちらこちらで熱い議論が交わされておりました。北海道支部では地域主権や独立国家論が話題になる事が多いと思いますが、東北支部や北陸支部の技術士は、首都圏や他地域との連携を意識しているように感じました。良い意味の刺激をたくさん受けることができ、私にとって実り多い研修会となりました。

仙台は牛たんで有名で、現在約 60 店の専門店が存在します。大熊広報委員長ご推薦の店には残念ながら行けませんでした。仙台駅の“牛たん通り”で食すことができました。



写真-3：“たん助”の牛たん